

令和4年度 調布市立第三小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
<p>○情操の豊かな子ども ○自主的に学ぶ子ども ○明るく健康な子ども</p>	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
○子どもが元気	学校は、子どもにとって安全で安心できる場所であり、心身ともに充実した学校生活を構築する。
○教職員がやる気	教職は、児童の夢に向かって共に歩いていける使命ある尊い職であることを自覚し、やりがいをもって職責を果たす。
○地域に活気	学校がコミュニティの中心的役割をもって保護者、地域等と共育する学校づくりを推進する。
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>○児童は、明るく素直であいさつもよくできる。さらに児童が充実した学校生活をおくるために自尊感情を高め、情操豊かな児童の育成に努める必要がある。</p> <p>○児童に生きる力を育成することを教職員が自覚をもって行うために、児童主体に重点をおいた個別最適な学びや協働的な学びを施す授業改善が必要である。</p> <p>○社会に開かれた教育課程の推進を図るために、保護者や地域等の力を結集し、地域とともにある学校づくりを推進していく必要がある。</p>

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な国語の知識や技能 言語文化を理解し、親しもうとする態度 筋道立てて考えたり想像したりして、文章を書く力 伝え合う力、自分の考えがもてる力 楽しんで読書をし、言葉を使おうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 言語事項の基本的知識や技能を身に付けさせ文章を書いたり口頭で発表したりする。 友達との対話や話し合いの中で、自分の考えを創り出す活動を行う。 様々な作品に触れ、言葉による表現の面白さや内容の豊かさに触れる機会を多くもつ。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 国や地域の地理的環境、社会の仕組みや働きについての理解を図り、情報を適切に調べ、まとめる力 社会的事象を多角的に考え、適切に表現する力 よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に地図や資料集を活用し、資料を正しく読み取ったり資料から分かることを考えたりして資料活用の技能を身に付ける活動を行う。 学び合いや体験的活動を充実させ、社会的事象を比較・関連・総合させて再構成する学習活動を工夫する。 児童の気付きをもとに学習問題を設定し、問題解決型の授業展開を行うことで、主体的に学ぶ姿勢と他者意識を育む。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な概念や性質などを理解する力 数直線や図、計算のきまり等を用いて筋道を立てて考察する力、数学的な表現を用いて表す力 よりよく問題解決をしようとする態度、学んだことを生活に生かそうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を活用し、待ち時間や合間の時間、家庭学習の時間に取り組むことで基礎基本の習得を徹底する。 図や計算のきまり等の基本的な問題に加え、日常場面に即した問題や、複数の要素を組み合わせた応用問題に対しても、解決に必要な手立てを段階的に示し、児童が課題にふさわしい手段を選びながら課題解決に取り組めるようにする。 時間ごとに取り組む内容を明示するとともに、学習の終末に学びの振り返りやまとめを自分の言葉で書くことで、より深い学びを達成していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象に対する概念や性質、規則性の理解 観察、実験などの技能 問題解決の力 自然に親しみ生命を尊重する態度 主体的に問題解決しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験を振り返り、単元の学習内容と結び付けられるよう指導計画を工夫して作成する。 教材教具を十分に準備し、すべての児童が実験や観察に参加できるよう工夫する。 問題解決の力を付けるために、各学年重点を意識した授業づくりを行う。 動植物の飼育や栽培などの体験活動を多く取り入れる。 自然の事物や現象に多く触れさせる。

<p>生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、身近な人々、社会や自然のよさや関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能 ・身近な人々、社会や自然を自分とのかかわりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、伝える力 ・体験したことを振り返り、よりよい生活をするために自分にできることを考え、それを表現し、実行できる資質 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験の場を設ける。 ・対話、話し合い活動を授業に位置付ける。 ・体験後に一人ひとりが考えたことを多様に表現できるよう、様式や発表方法の工夫をする。 ・身近な人々に対する感謝や自然を大切にする気持ちをもてるよう、道徳等他教科との関連を意識した活動を行う。
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の各領域の基礎基本の技能 ・楽曲の構造についての理解 ・自分の思いや意図をもって進んで表現する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然で無理のない発声法や楽器の正しい奏法をしっかりと押さえる。 ・読譜や楽曲の構造の理解を進める学習を取り入れ、音楽づくりに生かしたり、演奏表現に生かしたりする力を育成する。 ・お互いの歌や演奏などを聴き合い、よりよい表現に向けての意見を出し合い、演奏に生かす。
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の感覚や行為を通して、形や色などの特徴についての理解 ・自分の思いを基に工夫してつくったり表したりする技能 ・感性を働かせながらつくりだす喜びを味わい、生活や社会の中の形や色などに豊かに関わろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も試しながら取り組ませ、自分自身がよいと思う色や形を見付けられるようにする。 ・材料や道具、題材に興味をもたせたり、活動の見通しをもたせたりして、活動全体に対しての関心や意欲を高めるようにする。 ・友達と交流する時間を設け、作品のよさや美しさに気付いたり、自分の見方・感じ方を深めたりできるようにする。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な知識や技能 ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定し、児童同士で協働しながら様々な解決方法を考えることで、自らの思いや考えを表現できる力 ・家族の一員として、家庭の生活をよりよくしようと工夫する態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の方々の協力によって家庭生活が営まれていることを知り、家族の一員として家庭の仕事を設定し、取り組んでいくことができるような授業を計画する。 ・日常生活で当たり前のように行っている家庭の仕事に目を向け、問題を見出し、課題を立てる活動を行う。 ・児童同士の話し合いや実践を通して、生きる力としての「家庭科」の学習を意識付ける。 ・自分の生活に必要な情報を吟味、選定、発信できるようにする。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力 ・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度 ・身近な生活における健康・安全についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の力をつけるために、「やってみる→振り返る」のサイクルを行う。 ・運動やスポーツは特性に応じた楽しさや喜びがあることと体力の向上につながっていることを伝える。また、「すること」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、運動やスポーツとの多様な関わり方について考える活動を行う。 ・保健領域では、養護教諭や外部講師とのITを実施する。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の働き、役割に関する理解及び技能。 ・外国語で、情報や考えなどを表現し合う力。 ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り、日本語での説明を少なくし、外国語でジェスチャー等を用いながら説明する。 ・児童同士のコミュニケーションの場を多くする。 ・国によって文化が異なることが理解できるよう、様々な文化圏にふれる機会を設定する。
<p>道徳科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や体験と、ねらいとする道徳的価値を関連付け、自己を見つめる＝客観視できる資質 ・相手の思いや考えを聞き、多様な考えを尊重し認め合う資質 ・自分事として自らの考えを述べたり、よりよい行動をしようとしたりする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書により、児童の考えを促せるよう、見える化の種類やツール等について工夫し、思考の共有化を図る。 ・対話や話し合いの場面を設定し、その中で考えの変化が分かるよう板書に生かす。 ・児童の学びの姿の見取り方を整理し、「自己を見つめる」姿の実現を図り、更に評価にも生かしていく。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や基本的な表現についての理解及び技能 ・外国語で自分の考えや気持ちなどを伝え合う力 ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語への抵抗感を少なくするために、ジェスチャーや等を用い、楽しい雰囲気づくりを行う。 ・AETと児童や、児童同士のコミュニケーションの場を多くする。 ・外国語やその背景にある文化にふれる機会を設定する。